

SNW対話イン鹿児島大学 2014 事後アンケート結果 (平成 26 年 9 月 25 日開催)

纏め：廣 陽二

1. アンケート回答者 85 名 (内訳)

・ 4年	12名
・ 3年	72名
・ 不明	1名

2. 対話会について

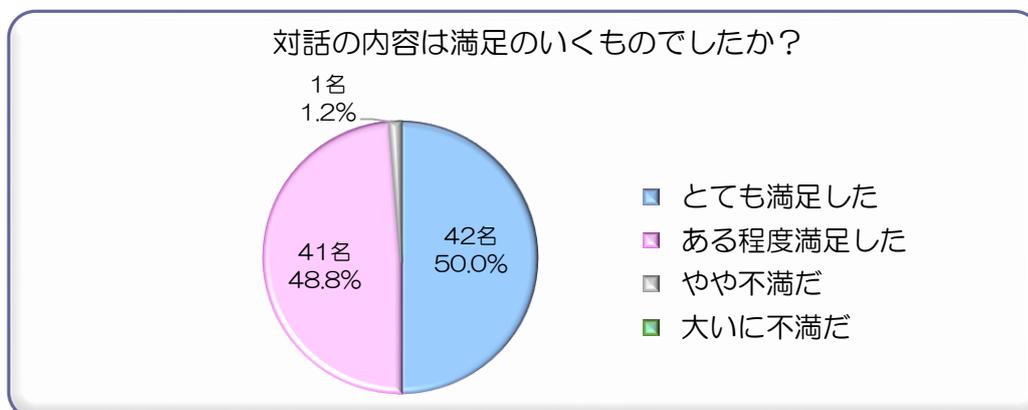
(1) 対話の内容は満足いくものでしたか？その理由は？

とても満足した	42名 (50.0%)
ある程度満足した	41名 (48.8%)
やや不満だ	1名 (1.2%)
大いに不満だ	0名 (0.0%)

1名を除き、「とても満足した」、「ある程度満足した」と回答している。

「やや不満だ」(1名)の回答理由は“あまり話題が盛り上がらなかったため”であった。

また、「大いに不満だ」の回答はなかった。



<理由>

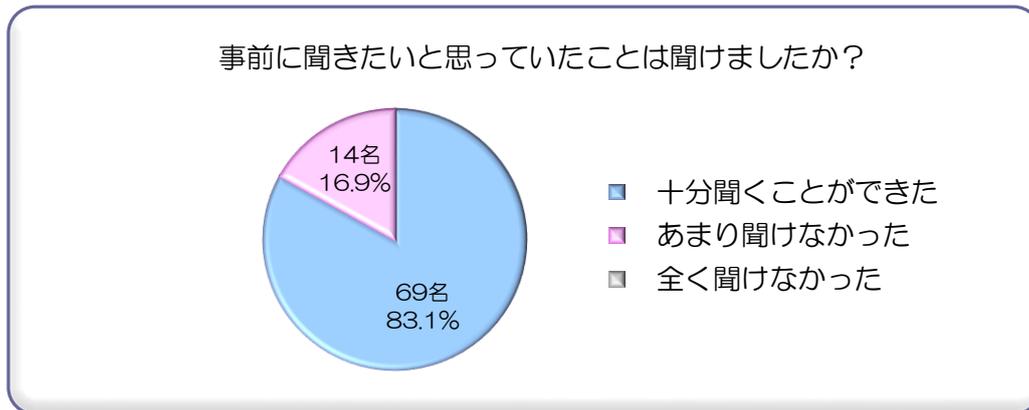
- 多くの偏向報道が行われている中、正しい情報を得る良い機会となり、多くの知らないこと、知りたいことを知ることができた。
 - ・ 普段の講義では聞けない、非常にためになる話を聞けたため。
 - ・ 自分が知りたいことに対して、隠したりすることなく、丁寧に詳しく教えていただいた。
 - ・ 福島原発の事故についての詳しい話や安全基準の話についてよく理解できた。
 - ・ 原発に関するメディアリテラシー等、分からない疑問を解決できたから。
 - ・ 技術者の視点が聴けたから。
 - ・ 原子力発電所の仕組み、再稼働について聞くことができた。
 - ・ 自分の聞きたかった質問ができ、それに対するシニアの考えが聞けたから。
 - ・ 知らなかったことを知り、自分が間違った知識を身につけていると知ることができたから。

- 原発はテレビ等でいいイメージを持っていなかったが、今回の対話でそのイメージが変わった。
 - いろいろな質問ができ、安全のために様々な対策を行っていると知ることができたから。
 - 原発について、メディアが取り上げている情報とは違った内容や目線で聞くことができた。
 - 原子力について、ここまで深く考えて意見交換ができる機会はあまりないと思ったから。
 - 意見があまり出せず、シニアの方に気を使わせてしまったかなと思った。電力会社的な面から話が聞けて良かったかなと思った。
-
- 時間がギリギリなこともあり、大変だった。
 - もう少し時間があると良かった。
 - ベストミックスの未来についての対話は「何%」と決まらなかったから、十分ではなかった。
 - シニアの方の貴重な話を聞いた一方で、自分から質問や意見があまり出せなかった。
 - あまり話題が盛り上がらなかったため。
 - 質問と応答に少しズレがあった。

(2) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

十分聞くことができた	69名 (83.1%)
あまり聞けなかった	14名 (16.9%)
全く聞けなかった	0名 (0.0%)

「十分聞くことができた」の回答が8割を超える。



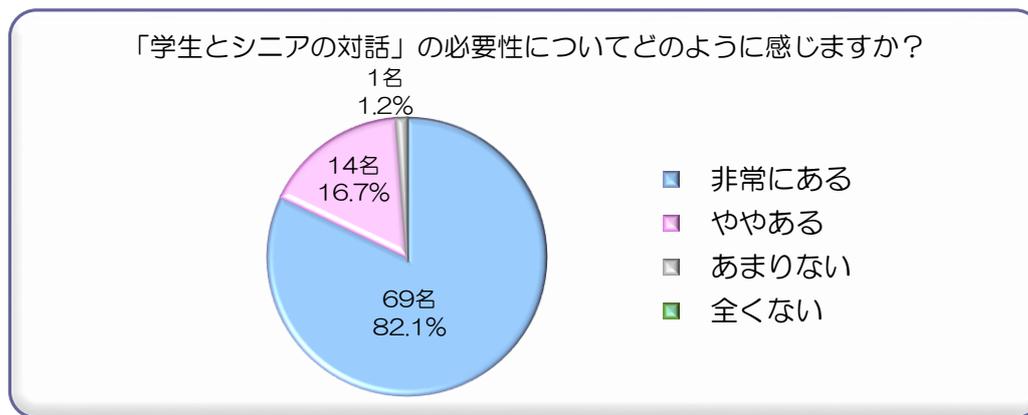
(3) 今回の対話で得られたことは何ですか？

- ・ 特に気になっていた、今後の原発の安全基準や防災対策、再稼働について学ぶことができた。
 - ・ 原子力に対する安全性。合理的な発電方法にかなり近いが、潜在的なリスクを持っていること。
 - ・ 原発の正確な知識を持つことで再稼働の賛成、反対を主張するべきである。
 - ・ 一方向からの情報だけでなく、様々な方向から物事を判断することを学んだ。
 - ・ 原子力の知識。裏側のような、なかなか聞けない話。
 - ・ 現時点での川内原発の安全性と、将来的にも原子力が使われていくだろうと分かった。ただ、最終処分場等、残された問題も多いということ。
 - ・ 原発の事故の原因を知ることができた。
 - ・ 原発の安全基準の厳しさ。
 - ・ 安全性について知ることができたこと、また、それゆえに世間からするとすごく離れているようにも感じ、そのギャップを感じたこと。
 - ・ 原子力発電所は自然災害への対策をしっかりとしているということ。
 - ・ 原発の安全性、現在の教育の不安性、マスコミの焦点の当て方。
 - ・ 原発や原発に関わる技術や、社会・マスコミ・教養のあり方に対する知識。
 - ・ 原発や新しいエネルギーに関する知識。
 - ・ 原子力発電施設の現状は技術面に関しては、ほぼ問題なく過剰な恐れや国民の知識不足、報道等にあることを知った。
 - ・ 福島について。原子力の基礎について。
 - ・ 知らなかったことを知り、自分が間違っていた知識を身につけていると知ることができたから。
 - ・ 原子力発電所の構造やBWR、PWR等のシステム、日本が原発に対応している保護システム。
 - ・ 原子力発電の安全性が理解できた。
 - ・ 他の発電の知らないデメリット。
 - ・ 原子力についての基本の知識や今後のエネルギー政策について、多方面から考えることができた。
 - ・ 原子力の実際の対策。(メディアの報道で不十分な部分)
 - ・ マスコミで大きく取り扱われることのない情報。
 - ・ 原子力に関して、大切なことは知識を持つこと。その知識を持って考えるということが大切だと思った。
 - ・ 自分で正しい情報を得るために、まず疑うこと。メディアリテラシーを身につける。安全・安心の違い。
 - ・ 原発を動かすために活動していることとメディアの状況。
 - ・ 原子力の安全性。原子力だけでなく、地層処理等の評価。
- ・ 盲目の群像。
 - ・ 全く違う変わった考えを持つ人がいて共感は得られなかったが、こういう考えがある人もいるのだと思った。

(4)「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？その理由は？

非常にある	69名 (82.1%)
ややある	14名 (16.7%)
あまりない	1名 (1.2%)
全くない	0名 (0.0%)

1名を除いた全員が「非常にある」、「ややある」と回答している。
「あまりない」(1名)の回答理由は“話が一方的である”であった。



<理由>

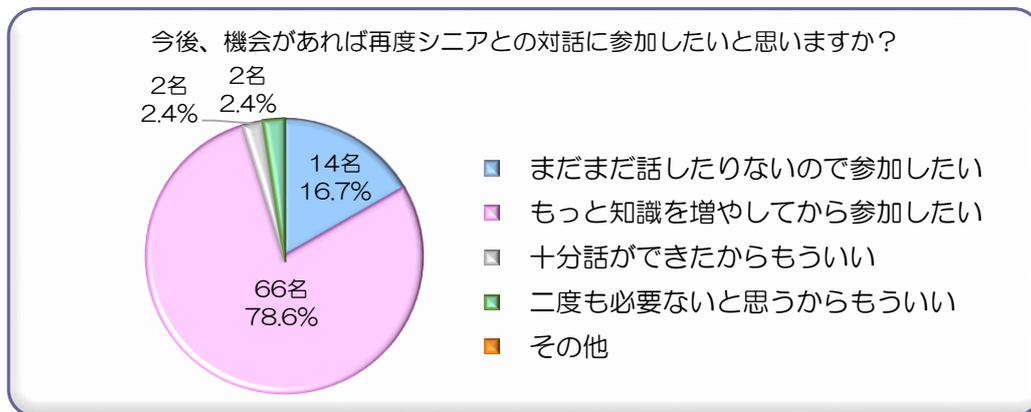
- 普通の講義と違い、学生が能動的に動く機会が設けられているため、刺激もあり、知識の吸収がスムーズに思えた。また、能動的に動く、というのは社会に出る前に十分慣れておくべき。
- ・ 専門的で新しい情報を分かりやすく伝えてもらったので必要だと思う。
- ・ 単純に広い知識から様々な質問に対する答をもらったのも有難いが、それ以外にそれぞれの専門家としての多角的な問題の捉え方や考え方を提示してもらったことが特に有意義だったと感じたため。
- ・ 学生は教師の考え方が身についてしまいがちなので、シニアの方々のような外部からの意見を聞くことで、考えの幅を広げることができると思うため。
- ・ 若者は知識がないが時間があり、シニアは知識があるが時間がないので、ウィン・ウィンの関係性を築けるから。
- ・ 第一線を退いたからこそ話せること、伝えられることがあると思うので。
- ・ 若者はあまり世間のことについて関心がないので、私たち若者が関心を持つ良い機会になると思う。
- ・ 自分たちが知らない知識の深さ、物事に対する様々な側面等を学ぶ良い機会となった。
- ・ 長年の経験と知識に基づく説得力のある意見を聞けるから。
- ・ 年代や知識の差によって、お互いに得られるものがある。
- ・ 学生にとって経験豊富な方と話をする機会はなく、その分野のリアルな話を聞け、自身の意識を改める良い機会になるから。
- ・ 実態を知っている方との話は、何よりも信憑性があるから。
- ・ 誤解や先入観の払拭、そして正しい知識の伝播が期待できる。
- ・ 分からないことや調べてもなかなか分からない知識を持っておられるので必要だと思う。

- シニアたちはマスコミと違って専門や確信できる情報等を知っている。
 - 原子力についての基本の知識や今後のエネルギー政策について多方面から考えることができた。
 - 自分で正しい情報を得るために、まず疑うこと。メディアリテラシーを身につける。安全・安心の違い。
-
- 対話するよりも講義の方が頭に入るから。
 - 話が一方的である。

(5) 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？

まだまだ話したりないので参加したい	14名 (16.7%)
もっと知識を増やしてから参加したい	66名 (78.6%)
十分話ができただからもういい	2名 (2.4%)
二度も必要ないと思うからもういい	2名 (2.4%)
その他	0名 (0.0%)

「もっと知識を増やしてから参加したい」の割合が一番高く、約8割を占め、「まだまだ話したりないので参加したい」を加えると9割を超える。

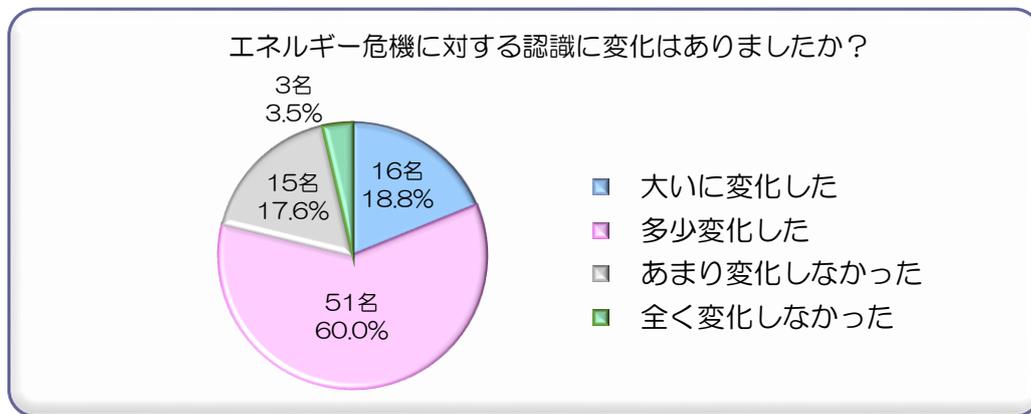


(6) エネルギー危機に対する認識に変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した	16名 (18.8%)
多少变化した	51名 (60.0%)
あまり变化しなかった	15名 (17.6%)
全く变化しなかった	3名 (3.5%)

「大いに变化した」又は「多少变化した」の回答は約8割を占める。

「あまり变化しなかった」15名の回答理由は、“原子力の必要性をもともと感じていたから”、“もともと危機感を抱いていたので、あまり変化はしなかった”と同様の意見、また、「全く变化しなかった」(3名)の回答理由は“エネルギーについては、あまり話し合わなかった”、“エネルギー危機に関してもともと調べていたので考えが変わることはなかった”、“もともと原子力を信じていたので、今回の対話を通して、日本の対策を知った以上、もっと原子力を信じるようになった”であった。



<理由>

- 原発の安全な運用が社会貢献になると思った。
- ・ マスコミからの知識が全てではないことが明らかになった、真実を知ることができた。
- ・ 火力ばかりに依存している世の中の現状を知ることができたため。
- ・ 原発に対する不安は払拭された。
- ・ 原発は重要な発電手段であり、今後しばらくは必要であると感じた。
- ・ もともと危機感を持っていたが、もっと危機感が持てるようになった。
- ・ 原発再稼働してエネルギーを確保するべきだと思った。
- ・ 原子力発電では原材料であるウランやプルトニウムが半永久的に得られることが分かり、エネルギー面は安全なのかなと変化した。
- ・ 原発がなき今、その他のエネルギーでカバーしているが、やはりシワ寄せが来るはずである。化石燃料等、エネルギーを無駄に使用すべきでない。
- ・ 原子力の必要性をもともと感じていたから。
- ・ もともと危機感を抱いていたので、あまり変化はしなかった。
- ・ エネルギー危機に関してもともと調べていたので、考えが変わることはなかった。
- ・ もともと原子力を信じていたので、今回の対話を通して日本の対策を知った以上、もっと原子力を信じるようになった。
- ・ 燃料については考慮していなかったので、有限な資源と向き合っていくエネルギー政策が必要

だと思った。また、厳しい条件をクリアすれば原発は安全であることも分かった。しかし、これに満足せず、さらなる安全性と新エネルギーの開発はし続けるべきだと思う。

- 原発は危ないだけでいらなと思っていて、安全性の確保とエネルギー生産量から必要であると感じたから。
 - 徐々に化石燃料がなくなり、我々が使える資源というのがなくなる。しかし、徐々に多くの資源を探すことで、このような問題が解決されると考えられる。
 - 資料の具体的な数値、有限性についての講演内容を聞くことで、より一層危機的だと感じた。
 - 現在の生活に非常に大きな影響を与えるほどの変化がないので、火力発電だけでも大丈夫なのかと思っていた。しかし、今はいいが将来が本当に危機に直面すると思い、早く手を打たないといけないと思った。
 - 九州電力の現状を知ったから。
 - 原子力発電の安全性が自分の知識をはるかに超えて、高くとられていたから。
-
- 自分たちのグループの対話では、エネルギーの事に関してはあまり討論しなかったため。
 - 他人の考えが分かったが、自分の考えを変える必要はないと思ったから。
 - エネルギーについては、あまり話し合わなかった。

(7) 原子力に対するイメージに変化はありましたか？その理由は？

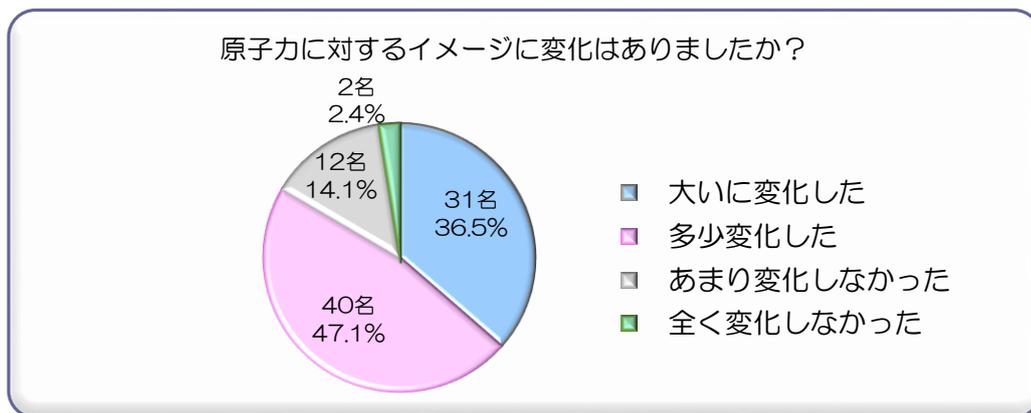
大いに变化した	31名 (36.5%)
多少变化した	40名 (47.1%)
あまり变化しなかった	12名 (14.1%)
全く变化しなかった	2名 (2.4%)

「大いに变化した」と「多少变化した」の回答を合わせると8割を超える。

「あまり变化しなかった」と回答した12名のうち、

9名は“事前に情報をインターネット等を介して得ていたため、知識に大きな変化はなかった”と同様の意見、1名は“特になし”、2名は空欄であった。

また、「全く变化しなかった」2名の回答理由は、“マスコミは確かに間違っていない。だが、悪い見せ方しかできない今のやり方に非常に憤りを感じる。日本の技術は他国を牽引できるほど素晴らしいものだ”、“もともと原子力を信じていたので、今回の対話を通して、日本の対策を知った以上、もっと原子力を信じるようになった”であった。



<理由>

- 事前に情報をインターネット等を介して得ていたため、認識に大きな変化はなかったが、多くの知識を得たため。
 - ・ 原子力を否定したとしても、いずれ枯渇してしまう資源に頼った発電では限界が来る。自分は原子力に反対していたわけではないが、賛成派ではなく、どちらかという反対という考え方だった。しかし、他に現実的なエネルギーを見出せない間は、有効な電力源として原子力発電の技術の向上について向き合うことも必要かと思えるようになった。
 - ・ 以前は、原子力イコール危険な物というイメージが強かったが、今回の対話でそこまで危険な物ではないと感じるようになった。
 - ・ 原子力行政に関わっている人は、本気で取り組んでいると知り、多少安心した。
 - ・ 川内原発に行き、実際の防災対策を見たため。
 - ・ 東日本大震災後、危険という認識が強かったが、技術的には十分に安全であると考えたから。
 - ・ 自分の想像以上に安全策があり、事故が起こる方が稀と感じたから。
 - ・ 川内原発に行って、こんなにも厳重に守られているのだと思った。
 - ・ マスコミは確かに間違っていない。だが、悪い見せ方しかできない今のやり方に非常に憤りを感じる。日本の技術は他国を牽引できるほど素晴らしいものだ。

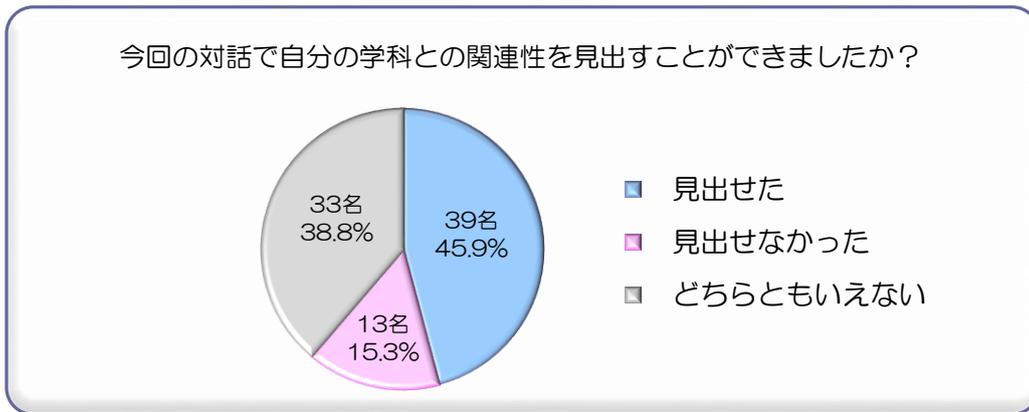
- 早めの再稼働を期待したい。
 - もともと原発は必要だと思っていたが、現状の技術と問題点は何かを知ることができて、原発の認識がより正しいものに近づいたと思ったから。
 - 原子力の安全性を知る事ができ、川内原発と福島原発の違い等も知る事ができた。
 - 安全面においてのリスクよりメリットの方が現状として重要だと思ったから。
 - 安全性に対するイメージが大分良くなった。
 - 見学に行ったことで、かなり厳重に対策が練られているのが分かり安心した。
 - もともと原子力を信じていたので、今回の会話を通して日本の対策を知った以上、もっと原子力を信じるようになった。
 - 原発見学によって、どれだけ災害への対策がなされているかが分かったから。
 - 最近、原発に関する報道が少なく、現在どういう対策をとられているのか、あまり分かっていない中で、講義や見学でしっかりと対策が見直されていると実感した。
 - 危険なものと意識していたが、正しい知識を身につければ我々の生活に必須であると感じた。
 - 原子力が重要なエネルギー源であることは分かっていたが、その危機について恐れがあったが、原子力発電のメリットについてたくさんの事が分かった。
 - 安全に対して真摯に向き合っているという印象を受けたため。
 - もとから原子力は危険だが取り扱いをきちんとすれば、それにも勝るメリットはあると思っていたため。
 - “新しい食と農”という授業を受け、脱原発を支持していたが、講演・対話を終えて考えが180度変わった。
 - 危険、危ないという意見だったが、しっかりと準備し対処することを行えば、そこまでアレルギーのように遠ざける必要はないと思った。
 - マスコミ報道では深く言及されない焦点から考えられたから。
- • 地震による影響はとても低いのだと感じたが、危険（廃棄物）が付いているんだと改めて考えさせられた。
 - 原子力に対するイメージは良くなったが、放射線という目に見えない恐怖に対する心境にはあまり変化がないように思う。

(8) 今回の対話で自分の学科との関連性を見出すことができましたか？その理由は？

見出せた 39名 (45.9%)
見出せなかった 13名 (15.3%)
どちらともいえない 33名 (38.8%)

「見出せた」の回答が約半数を占めた。

「見出せなかった」と回答した13名は、“あまり機械の話が出なかったため”、“学科での考え方、感覚と違うため”、“放射線と学科の内容が繋がりにくかった”等であり、3名は空欄であった。



<理由>

- 安全性に対する技術の向上という点について。
 - ・ 新エネルギーの必要性を見出した。
 - ・ 化学工学の技術者が主体的に関わるべき問題も多いと感じた。
 - ・ 原子力は総合化学だということを、シニアとの会話で知る事ができたので。
 - ・ 発電タービン等、原子力発電を支える装置に関わっているから。
 - ・ 自分の研究している内容で使用する機器に使用されているから。
 - ・ 地震対策は建築学科の分野だと思っている。
 - ・ バイオマス等の新エネルギー関係について。
 - ・ 難燃性材料（原発の火災対策）について、もっと研究したいと思った。
 - ・ コスト面、エネルギー効率については関係性が深いと感じたから。
 - ・ 新エネルギーを開発する上で化学を用いるので関連していると思うが、研究室の研究内容とは直接的な関係性は見出せなかった。

- あまり機械の話が出なかったため。
 - ・ 情報分野のため、直接的に関連するのは難しかった。
 - ・ 情報生体関連なので、あまり見出せなかった。
 - ・ 学科での考え方、感覚と違うため。
 - ・ 今回は、原子力とメディア・教育等についての事だったので、環境とは関係はなかったと思う。
 - ・ 放射線と学科の内容が繋がりにくかった。
 - ・ 建築は技術開発というよりランニングコスト等が問題で、焦点が少し違うから。

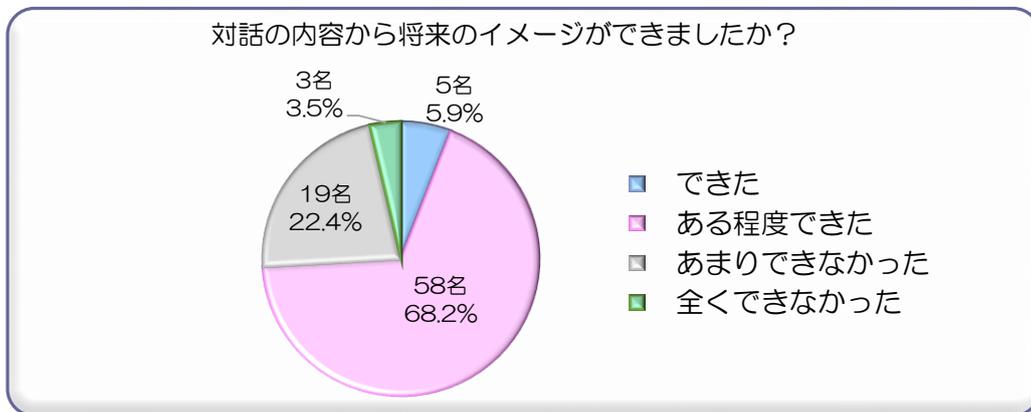
(9) 対話の内容から将来のイメージができましたか？その理由は？

できた	5名 (5.9%)
ある程度できた	58名 (68.2%)
あまりできなかった	19名 (22.4%)
全くできなかった	3名 (3.5%)

「できた」と「ある程度できた」を加えると7割を超える。

「あまりできなかった」の19名のうち、13名は“どの仕事につくか分からないので”、“何をしたいのかビジョンがないため”等であり、5名は「日本の将来のイメージ」について述べ、1名は空欄であった。

また、「全くできなかった」の3名は、“話があまり進まなかった”、“就職先として原子力関連にあまり興味が湧かないため”等であった。



<理由>

- ・ 将来は、あらゆる要素から導き出されるが、再稼働や廃炉の問題等は進んでいくように見えた。
 - ・ 今後の原発やエネルギーについて話したためイメージが湧いた。
 - ・ ベストミックスの模索が不可欠と感じたから。
 - ・ 原子力関係の職にも興味が出た。
 - ・ 原発を否定している人たちは、原発についてあまり知らないのでは？と思った。これはメディアが脱原発寄りの報道をし、真実を伝えないからだと思う。この人たちをどうにかしないと将来は分からない。
 - ・ 原発を使っでの現状維持かなと思った。何か新しい開発や問題解決がない限りは。
 - ・ 将来のエネルギーには、やはり原子力に頼るしかないと思っているため、ある程度想像できる。
 - ・ 原子力はこれから世界中でもっと使われると思う。
 - ・ これから原発が再開していく中で、具体的な再稼働のイメージが見えたから。
 - ・ 安全管理は一層厳しくなっていくと思う。
 - ・ 原発は資源の乏しい日本には必要で、この安全性の改善を繰り返す大切さを実感したから。
- ・ 自分自身、他の安定したエネルギー供給ができる方法があれば、すぐさまそれに乗り換えるのが良いと考えているため。
 - ・ どの仕事につくか分からないので。

- 何をしたいのかビジョンがないため。
- 将来のイメージはあまり湧かなかった。
- 情報生体関連なので、あまり見出せなかった。
- 話があまり進まなかった。
- 今回の対話では「過去は、…だから…すべき」というような事しか分からなかったため。
- 原発の安全性を見直され実行されている中で、原発反対の人もまだ多くいるといった矛盾があるため。
- 今はエネルギーは危機的な状況なので原発が必要なのかも知れない。しかし、自分の子、孫、後世まで美しく安全な世界を繋げるためには、想定外の災害が発生し、また原発事故が起こり、被ばくして異常遺伝子が生まれたりするリスクを考えたら、今から新しいエネルギーの開発が必要不可欠であると思う。
- 化学系の自分がどのように原子力と関わっていくのか想像できなかったため。
- 就職先として、原子力関連にあまり興味が湧かないため。
- 原子力発電を再稼働するかどうかは別として、半永久的なエネルギーが今のところ実現できていないため。
- 40年廃炉計画について、対策はあっても施行が難しいためイメージが困難になった。
- 再生可能エネルギーの開発が進み実現させる事ができれば、エネルギー問題も緩和されるのではないかと感じたから。
- このままずるずるいくと怖い。抜本的な発展が必要だと思った。

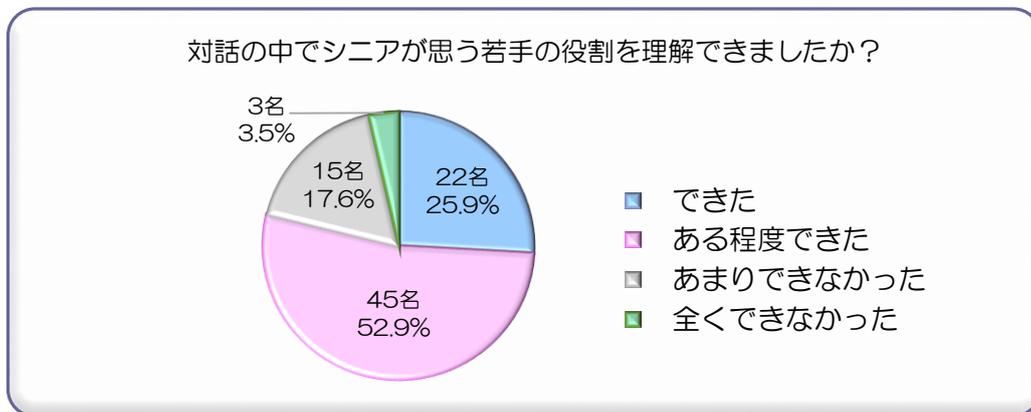
(10) 対話の中でシニアが思う若手の役割を理解できましたか？またその理由は？

できた	22名 (25.9%)
ある程度できた	45名 (52.9%)
あまりできなかった	15名 (17.6%)
全くできなかった	3名 (3.5%)

約8割が「できた」、「ある程度できた」と回答している。

「あまりできなかった」の15名のうち9名は、“よく分からなかった”、“情報が多くそこまで頭が回らなかった”、“そのような対話はなかった”等であり、6名は空欄であった。

また、「全くできなかった」の3名は、“若手についてはあまり話さなかった、リーダーシップが大事だということが分かった”、“あまり話しの中に出てこなかったから”、“物事について判断するには、まずそのことについて知らなければならないので、何事も調べろ”であった。



<理由>

- 後継者不足を改善するためにも、若手に原子力を理解して欲しいと思っていると知った。
- ・ いかに正しい知識を持っていない人々が原発・放射能を、感性・感覚的に怖れているか知る事ができたため。
- ・ 話を聞いて若い人が原子力について正しく理解し、それを周りの人に伝えていくという役割を理解できたから。
- ・ 原発の再稼動について賛成意見が多いのが20代であり、今後のエネルギー事情はもちろん、社会を動かす役割が大きい。
- ・ 「技術者の卵」というワードがたくさん出てきて、自分がそれだという事に気づかされた。
- ・ 私たちが今回学んだことを、シニアの代わりに成し遂げていかなければならない。
- ・ これからは若手の方々が原発に対してしっかりと知識を持ち、その上で自分の意見を持つことが大事だと討論で述べたため。
- ・ これから燃料が無くなっていくときに、新しい燃料を見つけるのは僕らだと思った。
- ・ 今回の講義で学んだ知識を講義以外でも、もっと発展させ自分が、また若い世代に教えることのできる知識を培うことが重要。
- ・ エンジニアとして、エネルギーの開発が必要だと感じた。
- ・ より多くの事に興味を持ち、今、伝えられなかった事を我々が伝えるべきであると感じた。
- ・ 福島原発から期待されることが増えたと思った。理系の私たちが一番こういう役割を認識しな

いといけないと思う。

- • よく分からなかった。
- 若手については、あまり話さなかった。リーダーシップが大事だという事が分かった。
- あまり話しの中に出てこなかったから。
- そのような対話はなかった。
- 自分のやっている学問とのつながりがほとんど原発と関係がないから。
- 情報量が多く、そこまで頭が回らなかった。
- 一方的すぎる。

(11)自分が思っていた若手の役割とシニアの考えは違いましたか？どのような違いがありましたか？また、シニアの考えを聞くことで、自分の考えに変化はありましたか？できるだけ詳しくお答えください。

- ・ 細かいところに違いがあるかも知れないが、大筋は同じ考えを持っていると感じた。
 - ・ シニアの方は自分が思っていたよりも多くのことを若手に求めているのだなと感じた。しかし、決して私たちに不可能なことを求めている訳ではないので、シニアの方の期待に応えられるよう努力していきたい。
 - ・ 特に変わりはなかった。しかし、原子力について学んだことで、私たちにはこの知識を周りの人々に伝える役割があることを再認識した。
 - ・ 現場の方の意見を聞いた事で事故が起こった時でも、その現場の方はしっかりしているんだという事が分かった。
 - ・ 違いはないと感じた。今以上に自分の未来だけでなく、地域、日本、地球のためになるように働ける努力をしていこうと思う。
 - ・ 原発が災害等に対してしっかりと対策をしているという事実が分かり、原子力に対しての不安がなくなった。
 - ・ 違いはない。役割と考えはほぼ同じ。しかし、知識の量が違っていると自分は思う。コストと安全が大切、それを両立させる、または最大限にする。
 - ・ 原発の必要性等、あまり考えに違いはなかった。
 - ・ もともとは原子力と自分は全く関係ないと思っていたが、今回の企画を通して、そうではなくて原子力に関する知識については、人々がそれを知るべきだと分かった。
 - ・ シニアの方は地域に合った発電方法の採用を利用する考えであり、私のように頭から原発しかないというような考えではなかった。
 - ・ 原子力に対する知識を深めることが大切だと思ったが、どのようなものか広める必要もあると感じた。
 - ・ 若手はできるだけ新エネルギーを開発することが大事であると考えていたが、目の前にある問題を解決することも大事であると感じた。
 - ・ 大体同じだった。シニアの方々の話を聞いて、専門の知識をより増やしていかなければならないと思った。
- ・ 原子力の知識・技術・ノウハウは重要だし、これからも保持し、発展させていくことが求められると思う。しかし、「原子力での発電が絶対いい」という結論ありきの目的と手段を取り違えた考え方は良くないとも思った。
 - ・ 自分が考えている原子力の仕組みとシニアの考えは異なるものがあった。
 - ・ 若手の役割についての話はあまりなかった。
 - ・ 一方的に話される事が多く、意見を言うひまがなかった。

(12) 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。

- ・ シニアとの対話の前に何日か原子力について勉強したので、その中で新たに出た疑問について質問できて良かった。ファシリテーターの人がうまく仕切ってくれたので様々な話ができ良かった。
 - ・ 今回の企画で自分が知らなかった事、考え方をシニアに話して、考え方がいろいろあることを知る事ができてとてもためになった。
 - ・ こういった企画は学生にとって、とても貴重であり、本企画をぜひ続けて様々な学生に良い経験をさせていただきたい。
 - ・ 座学はもちろん、原発見学、シニアとの討論、普通の授業と違った面が多くあって、とても有意義だった。
 - ・ すごくためになった。より多くの場所で行われれば、もっと良いエネルギー社会になると思った。
 - ・ シニアの方と対話する事で私の中での原子力のイメージが変わった。他にも様々な知識を得ることができ、本当に良かったと思う。
 - ・ シニアの方々と多くの意見を聞く機会になって本当に嬉しかった。また、我々若手がとるべき態度を社会に出てから、社会に出る前に備えないといけないと思った。
 - ・ 原発やそれ関連について若手のみの考えではなく、シニアの深い話や真実を聞き、学ぶことができたのでとても良い勉強になった。
 - ・ 講演を聞くことはあっても、今回のように近い距離で話を聞く、質問をしてそれについて答えてもらえるという機会はなかなかないと思うので、本当に貴重な経験だったと思う。
 - ・ 普段生活するのではあまり考えることがないことを、専門家の方々とディベートすることを通して学ぶこと、考えることができて良かった。
 - ・ 普段なかなか触れない議題を話せる貴重な体験だった。また、このような機会があれば積極的に取り組んでいくべきと思う。
 - ・ こういったいろいろなシニアの方を呼んで話を聞く等、福島原発事故が起きていなければ、また、鹿大に来ていなければ聞いていないわけなので、非常に有意義な4日間となった。
- ・ 原子力の知識・技術・ノウハウは重要だし、これからも保持し、発展させていくことが求められると思う。しかし、「原子力での発電が絶対いい」という結論ありきの目的と手段を取り違えた考え方は良くないとも思った。
 - ・ 対話時間が非常に短い。
 - ・ 対話会はとても良いが、話し合いをするには時間が短い。もう少し時間を増やすか、1グループの人数をコンパクトにて意見を出しやすくするといった方がいいと思った。
 - ・ とても良い企画だと思うが、アドバイスとして最後は全体にわたって発表ができればいいなと思う。
 - ・ グループの人数が多過ぎて話をまとめるのが難しかったように思う。原子力の勉強が足りないうちで対話をするのは少し困難なのではないかと感じた。
 - ・ もし、原発の隣に住んでいて、想定外の事が起こり原発事故が発生して被ばくしたら…。自分の子供が異常遺伝子のせいで元気に生まれてこなかったら…。目先の利益を考える事も大事だし、そうしないと生きていけないのも理解できるが、後世のために安全で素晴らしい世界を作るために、今、何が出来るかを考えていきたい。新エネルギーを作るためにも今は原発が必要

なのかも知れない。私たちにできることは原子力について興味を持ち、自ら調べ考える事だ。ただ、原発賛成という方々は原発の真隣に住むことはできるのか？と思う。誰かが犠牲になる事も忘れてはならない。

- もう少し若い人、現在技術職の人とシニアの人等、様々な年齢層の人と、意見の違い等を見てみたかった。
- 発表する時間や準備等の時間はもう少し多くても良いと思った。